

10.26

文学部二年の学友に呼びかける。

文学部二年の学友のみならず、私たち日文二年AB組有志は、この向学費問題についての研究会を三回もつてきました。そして学生会中執の行なった対理事会団交にもその都度参加してきました。「学費値上げ」ということは、単に来年度新入生にのみ関係があること、私たちにのみ関係のないことなのでしようか。決して違います。学費値上げによって教育の内容が充実されるどころか、理事会の言っている教育の充実とは私たちが学生を完全に無視したものであり、ますます教育の低下をもたらす何ものでもないのです。しかも理事会の利益をより拡大させるのです。現在でも私たちは大学の中において疎外されていることは誰でも感じていると思います。私たちは常に自分の置かれていた状況から脱出することに努力を怠りません。しかしながら私たちが学費値上げによる拍車をかけるものがあることを知ったとき、学費値上げは私たち学生ひとりだけの肉體であることを認識しました。

そして次のことを強く感じました。

- 一、学費値上阻止の斗いは、一部学生会執行部の斗いではなく私たちみんなが斗わなければならない。
- 一、これまでこの斗いを通して私たちが多くの学費値上の反対の意志が斗いの中に反映されていらない。
- 一、それゆえ、ただちに私たちが参加できる斗いにするため各クラスに斗争委員会を設け、さらにそれを発展させた斗争委員会として学年別の連絡会設ける必要を強く感じる。

文学部日文二年
ABクラス有志